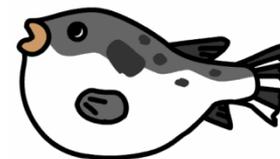


肢体不自由生徒へのiPadを 活用したコミュニケーション支援 ～支援学校での取り組み～



山口県立山口総合支援学校



対象生徒について

- 中学2年生、男子
- 肢体不自由(脳性まひ)、知的障害、発語なし
- 視線や口、上肢の動きで意思表示ができるが、伝わりにくい。
- 表出動作に時間がかかる。意思が曖昧な場合や不随意の動きもあり、周囲の人にとって判断が難しい場合が多い。
- 座位の保持にも困難があり、常にスイッチの設定位置の確認・修正が必要。
- 機器をスイッチで操作することが可能だが、活用できる機器やアプリが非常に限られる。

事前の状況

- 学習や活動へのモチベーションは高い頑張り屋だが、家庭以外では表情や声等の感情表現が少ない。
- 小学6年生の時にスライドスイッチで選択表現ができるようになり、言葉や文字、簡単な文章が理解できていることがわかった。

→ わかりやすく伝えられる
コミュニケーション手段を！

当初のねらい

伝わる喜びや楽しさを多く経験し、
コミュニケーションの意欲やスキルを高める

TAテキスト版 → シンボル＋文字
を選択し伝える →





「DropTalk」+iPadタッチャー ～ 朝のあいさつなど ～





「DropTalk」 + iPadタッチャー 「はい」で答える、選択する



事後の変化

- 先生や友達からのあいさつに、頭を大きく振りかぶって意欲的にスイッチを押したり、自分からあいさつをしたりすることが増えた。
- 「はい」で選ぶことは、スタート時は難しく、読み上げを繰り返したり、スイッチを押すのにも時間がかかったりしたが、「選ぶ→できる→楽しい」経験を重ねることにより、選んだり答えたりすることができるようになった。
- 困ったときに、援助を求めることができた。iPadがないときには、声で伝えた。→発信の意欲
- 受信中心のコミュニケーション→発信が育った

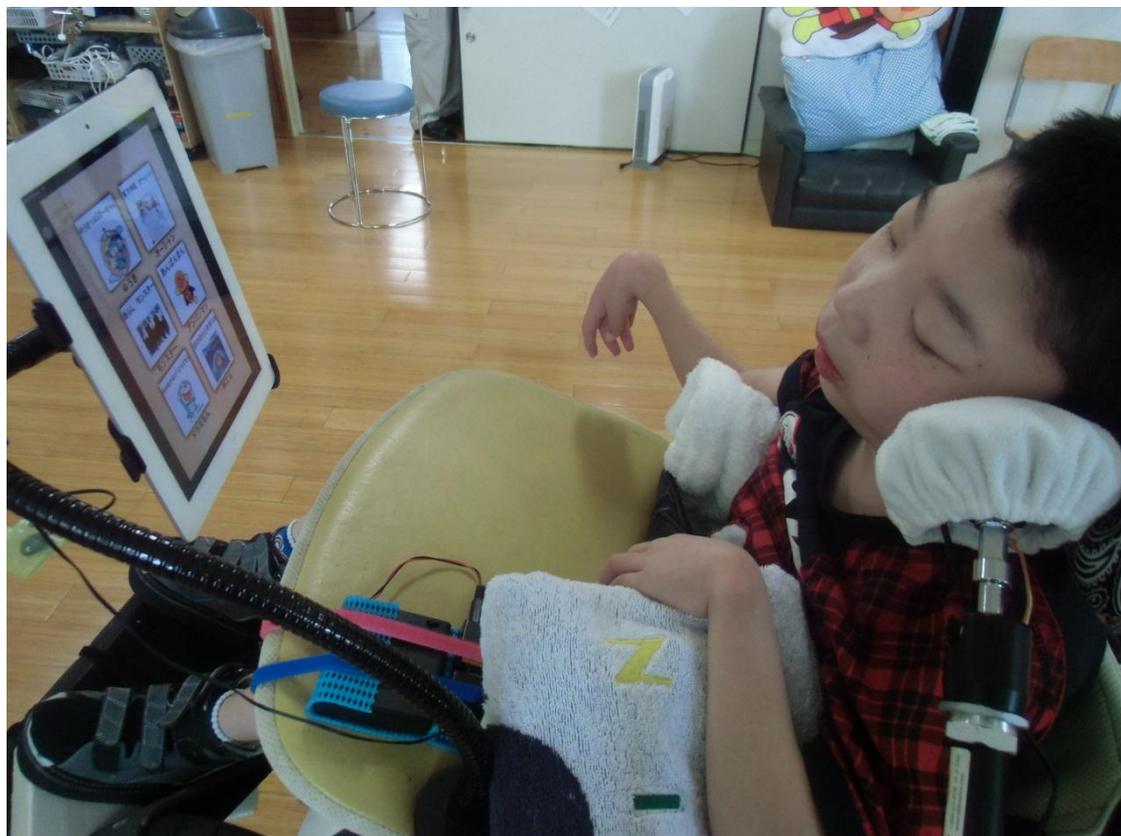


SoundingBoard+ できiPad。導入





SoundingBoard+でいきiPad。生活へ



事後の変化

- 操作の習得が速くなっており、スイッチを力強く押すことが増えた。現在、メニュー画面の操作を試行錯誤しているような場面が見られる。
- 学習中に教師の顔を見ながら喜ぶことが増え、相手を意識しながらコミュニケーションをしていることが感じられた。
- スイッチが押せない時や、iPadが使えない時は、その時できる方法で意思を伝えようとするのが更に増えた。
- 質問に声で答える場面が見られるようになった。
- 家でしか聞けなかったような声で笑い転げるようになった。
- 繰り返しカードを選ぶ場面が増えた。強調か？押したものと、思うカードが違うからか？

主観的な気づき

- 「伝える」→「伝わる」喜びや達成感が、安心感や意欲、自信に繋がったのではないか。
- 自分の目の前にいつもあることで、生活の中に役立つものとして認識ができたのではないか。

家庭での取り組み



家庭で取り組まれた感想

- iPadを使用することで親子の会話が広がり大変良かった。家族全員で興味をもって、積極的に会話ができる。
- 一生懸命スイッチを押して意思表示する様子がみられたことが大変驚きだった。スイッチがないときでも顔を動かしたり体を動かしたりして返事をしているんだなと思った。
- 選択のツールが入ると、さらに広がる。
- 機器を操作するための体勢が保持できることが必要。

iPadは・・・

- 彼にとって、コミュニケーションを可能にする手段であり、経験し学ぶことや、意欲を育てることのできる有効な機器でした。

* 特に優れていると感じた点 *

- ことば(シンボル)や選択画面を効果的な位置に提示・保持できる。
- 場面の变化に伴う言葉や選択画面の切り替えも視覚的に示せる。
→ 教師の指示が減る → 主体性や発信を引き出す
- 言葉や、選択の画面を多く準備しておけ、切り替えも瞬時にできる。
- 利用者に合わせて、大きさや選択肢の数、スキャンスピード等を設定できる。
- 支援者の準備が容易。

- 多様性、切り替え・準備の容易さ、価格

iPadを活用して広がった可能性と 育ちつつあるコミュニケーションの力

ほぼすべてを人にゆだねる生活

受身

→ 伝えることで、できることがふえる
伝えることで、思いがかなう、楽しめる

自分でできる

主体的

もっと伝えたい！



彼のこれからの人生を明るく豊かに照らし、
導くものへとつながっていくように！